

「確かな判断力と知識をもつようにわたしを教えてください。わたしはあなたの戒めを信じています。(共同訳) (私はあなたの仰せを信じていますから。: 新改訳)」詩篇 119:66

早いもので、今年も残すところ 1 か月余りとなりました。お変わりなくお過ごしのことと思います。日本は、師走を迎えて寒くなったことでしょう。ルワンダは雨期、雷鳴と共に大地を叩きつけるような激しい雨が日に何度も降り止んだりしています。しかしながら、止み間には青空が広がり、彼岸花が咲く頃のような清々しい風が吹き、我が家の小さな花壇にはコスモスが咲いています。

「トラウマの癒し」の働き人は、私を含めて 5 人、少人数ながら働き人が定着し、互いに信頼関係が構築されつつあると感じています。先週、遅まきながら全員そろってミーティングを開き、私の目指すことなどを話し共感をいただきました。

そして念願だった祈禱会を、先月より始めました。私以外の 4 人は、ペンテコステの教会に属し、歌って踊る讃美するクリスチャンであり、祈禱会は 4 時間を費やしました。こころルワンダで 4 時間の祈禱会は特別ではなく、土曜日は祈るため、日曜日は礼拝のために教会へ行くのがルワンダの大方のクリスチャンです。リリマでの祈禱会は、月に 2 回の割合で行われ、受益者のため、働き人のため、直面する問題や課題、必要のために祈ってゆきます。

ところで 9 月と 10 月に荒れたアタナジィでしたが、11 月にはアルコールを口にせず落ち着きを取り戻しています。10 月、かつて私がトラウマの実態調査を行ったカモニ郡ニャルバカ町より、20 年以上に渡って町内のトラウマを負った人たちに寄り添っている女性・デフローザをリリマへ招待し彼女の体験を語っていただきました。デフローザは、大虐殺で夫を始め多くの肉親を失い、自身もトラウマの症状に苦しみながら、今日までどのように生きてきたかを打ち明けてくれました。夫を亡くした時彼女は 28 歳、再婚の可能性があったにも関わらず独身を貫いたこと、アルコールへの依存からどのように開放されたのか、寡婦の貧しい家庭にも関わらず 2 軒の家を建てたこと、現在どのようにしてト

ラウマの人たちを支援しているのかなど、これらはどれも現在アタナジィが直面していることであり示唆に富む内容でした。

加えて、アタナジィと7人の子供たちをキガリへ招待したことなどが相まって、アタナジィは落ち着きを取り戻しました。「変わりたい、祈りを学びたい・・・」という切なる願いによって、再び教会へ通い始めました。そして母であるアタナジィの状態に、子供たちは即連動して彼らも落ち着いています。



上の写真はやや古いものですが、私の隣・赤い服を着ているのがデフローザ、他の4人の女性たちは、ニャルバカ町でトラウマの人たちに寄り添っている人たちです。

今年の7月にミシンを供与したアルフォンシンには、支援を終了するため食費代の漸減を始めました。経済的自立が可能であることを確認した上で、支援を終了するか否かを判断しますが、来年の早い時期には終了できることを願っています。

そして7月末をもって支援を終了したアドリンのお宅を、先週訪問しました。商品の種類は減ったものの雑貨店の経営は続けられ、自宅内部のドアが二つと勝手口のドアが設置されて、経済状態の良いことをうかがわせました。この訪問に先立ち、アドリンご夫妻から電話で訪問の依頼があり、要望に応じて家庭訪問した訳ですが、夫婦間の関係はすこぶる良好と感じました。

ところでこうして短信を執筆している間、アタナジィの次男・ジェロームが夕食の準備に沸かしていたお湯を被ってやけどを負いました。その部位は左腕の殆んどと背中の中約半分の比較的広範囲の受傷です。ヘルスセンターで2回治療を受けた後、町の病院に転院し現在は入院中です。彼及び彼に同伴するアタナジィのためにお祈りくださるようお願い致します。

短信が遅れて申し訳ありませんでした。受益者たち、そして働き人たち、この働きを通して遭遇するいろいろは事象に対し、冒頭のお言葉を切に祈り求めるこの頃です。どうぞ、この小さい者のためにお祈りくださるようお願い致します。

それではお元気でお過ごしくださいますように。皆様、お一人ひとりの上に主の豊かな祝福がありますように。

在主

2016年12月8日

竹内 緑



左から、パシフィック、サムエル、そして、やけどを負ったジェローム